



No.003

能登北部地域医療研究所



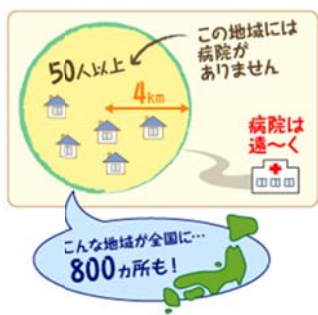
のとけんだより

2011.01.21

■へき地とは？へき地医療とは！？

「へき地医療」とはなんですか？一般の方はあまり聞きなれない言葉かもしれませんが、ここでは、誰にでもわかるようにできるだけ簡単にご説明します。

「へき地」とは簡単にいうと、例えば、山奥の村であったり、遠く離れた小さな島であったり「人が住んでいるけど、病院が近くにないで、とても不便な場所」のことです。ちょっと難しく言うと次のように言えます。



医療分野における「へき地」とは『交通条件及び自然的、経済的、社会的条件に恵まれない山間地、離島その他の地域のうち、医療の確保が困難である地域をいう。無医地区、無医地区に準じる地区、へき地診療所が開設されている地区等が含まれる。』と定義されています。そのうち無医地区とは『医療機関のない地域で、当該地域の中心的な場所を起点として概ね半径四キロメートルの区域内に人口50人以上（昭和40年以前は人口300人以上）が居住している地域であって、かつ、容易に医療機関を利用できない地区のことをいう』と定義され、平成16

年で全国に約800カ所もありましたが、全国各地で高齢化が進み、人口が少なくなっている地区もあるため「へき地」と呼ばれる地域は徐々に減ってきています。

では「へき地医療」とは何でしょうか？

「へき地医療」とはへき地で行われる医療のことです。主に「へき地診療所」や「小さな病院」が行っています。

しかし、最近では、「へき地医療」はその診療所だけで完結するものではなくなってきました。診療所と大きな病院との連携や、医師がいない時には、代替りの医師を派遣したり、専門医による巡回診療などを含めたものを全てをまとめて、これからの「へき地医療」といっているようです。なお、石川県内のへき地医療拠点病院は、石川県立中央病院、公立つるぎ病院、山中温泉医療センター、公立能登総合病院、公立穴水総合病院、市立輪島病院、珠洲市総合病院の7病院が指定されています。



■プライマリケア医の重要性！

へき地では様々な病気・ケガに対応できる「プライマリケア医」が必要！



へき地に限らず「風邪をひいた人」「骨折した人」「目が痛い人」「子供が病気」など住んでいる人の病気やケガは様々です。ですが、大勢の住人に対して医師がひとりしかいない地域もあります。そうした場合、医師はひとりで、内科・外科・眼科・小児科など、全ての診療ができなくてはなりません。

へき地ではそのような住人の健康問題を解決するために必要な総合的な能力・知識をもった医師「プライマリケア医」が必要となります。また、健康診断など病気の予防のための保健活動や、介護保険を中心とした福祉活動。さらに国や県・市町村の行政と連携していくこともとても大切なこととなります。

能登北部地域医療研究所では、魅力ある病院づくりの一環として公立穴水総合病院や近隣クリニックと連携し、プライマリケア医や総合家庭医を育成するための後期臨床研修プログラムの検討を進めております。

